

万博公園探鳥会

2022年1月8日(土)

リーダー 足立道成・有賀憲介・橋本寿紀・田中宏・
中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
平 軍二(090-6901-1425)

あけましておめでとうございます。今年も鳥を楽しみたいと思っています。

1. 千里の鳥・万博の鳥「アトリ」

アキニレに来たアトリ(20211216)有賀憲介氏



今シーズン冬鳥が少なく、最もポピュラーなツグミ・シロハラの姿がほとんど見ない珍鳥状態にあり、アトリは万博公園では観察できるものの小群である。しかし、年末に北陸・近畿北部が大雪となり、エサが取りにくくなった筈で南下すると思われ、新年には大阪近郊に冬鳥が増えることを期待している。

今月有賀氏の写真で紹介するのは、万博公園の冬を赤く彩るアトリが、アキニレの実をついばんでいる所である。万博探鳥会は昭和60(1985)年2月にスタートしたが、アトリは翌昭和61年1月探鳥会で観察した後、ほぼ毎冬、多いときは数百羽、少ない年でも数十羽の群を観察してきた。万博公園にアトリが多いのはアキニレが多数植栽されているためである。(但し、今冬は枝切りされたアキニレが多いので、実は少ないので、どうかと思っていました。)

アキニレに来る鳥はアトリだけでなく、カワラヒワ・マヒワ・イカル・コイカル・シメ・ウソなどがあり、万博公園に来たアトリ科の鳥のほとんどをアキニレで観察している。このようにアキニレに来るアトリ科の鳥が多いのに、鳥の食べる木の实として、アキニレを記載した文献を見つけることができなかった。

例えば、野鳥写真家として有名な叶内拓哉氏による「野鳥と木の实」には150種ほどの木の名前が載っているが、アキニレはなかった(★1)。叶内氏は植木屋さんから野鳥写真家に転身された方なので、アキニレを植栽された経験があったと思われ不思議であったが、改定版ではアキニレが記載されていることである。

たまたま見つかったヘンリー・D・ソロー(米国)の「森を読む」に「ムネアカイカルがニレの種子を食べているのを見たことがある」との記載があった(★1)。この原文は 1860 年ごろに書かれたとのこと、日本では徳川末期になるが、その頃にアトリ科の鳥がニレの種子を食べることを観察する優雅な人!!がいたことに驚きと、感銘を受けた。

アトリ科の鳥は、嘴が大きく、硬い木の実(種子)を食べることが良く知られている。万博公園でもシナサワグルミ・トウカエデ・カエデ、そして冬に乾燥した液果のエノキなどを食べている。そのアトリ科の鳥、しかもイカル・シメまで、アキニレのように小さく柔らかい実を好むのが何故かわからないままである。アキニレは9月下旬に花が咲き、10月には青い翼果をつけるが、すぐに留鳥カワラヒワが実を食べに来る。私は鳥の食べる木の実のほとんどを試食することにしているが、アキニレの青い翼果の真ん中にある種子は、噛んでみると稲の青い穂の未熟な米粒を噛んだと同じような感じで、ぬめり気が出てくる。12~1月には今回の写真のようにアキニレの実は枯葉を思わせる褐色に変化しているが、このころアトリ・カワラヒワ(マヒワも)などの最盛期である。2月になると実が地上に落ちるので、地上でアキニレの実を探している。

更に3月には同属のハルニレに花が咲き、4月にハルニレの青い実が生ると、北帰行直前のアトリ(マヒワ・イカル・シメ)が集まっている。ハルニレの実が無くなる4月下旬には、アトリ(イカル・シメ)などの冬鳥は繁殖地に向け出発し、いなくなっている。

(文献)★1 叶内拓哉著「野鳥と木の実ハンドブック」 2006/11 (文一総合出版)

★2 ヘンリー・D・ソロー著、伊藤詔子訳「森を読む……種子の翼にのって」1995/2 (宝島社)

2. 先月 12/11 探鳥会結果 12月とは言え穏やかな日和、個体数は少ないものの冬鳥が来ており、まずまずであった。世界の森ではイカル、そしてジョウビタキ、千里橋通りでアトリ、桜の流れ北側にシメ、水すましの池の小さな叢(くさむら)で2羽の**タシギ**、そして中締めとした砂の広場ではアオバト5羽が上空を飛んだ。午後、リーダーのみによる調査を続けたが、日本庭園の灯ろう下の石ころ上で1羽観察でき、さらにハイタカが飛んだ。**水すましの池**



タシギは昨年もみられ、**日本庭園灯ろう下イカルチドリ**は **タシギ(水すましの池)橋本昌宗氏** 数年前から観察されているが、ピンポイントで渡来するほどメリットのある場所とは思えず、両種が昨年と同じ個体であるとすれば、どんな理由でここに来るのか、鳥に聞きたいほど不思議である。



2021/12/11 初冬の探鳥風景

3. 今後の探鳥会について 万博公園探鳥会はコロナ禍で1年半以上中止したままでしたが、昨年11月より久しぶりに再開しました。年末までは落ち着いた状況でしたが、正月休み時のオミクロン株の影響でしょうか、コロナ感染者数は急拡大傾向にあります。大阪府にコロナ警報が出なければ今まで通りで継続しますが、状況によっては変更せざるを得ませんので、大阪支部 HP で確認してくださいようお願いいたします。

継続する場合でも、今月と同様、formzu 様式による申込となりますので、よろしくお願ひします。

**次回 2月12日(土) 9:30 自然文化園中央口
日本野鳥の会 HP fomuzs 方式申込**

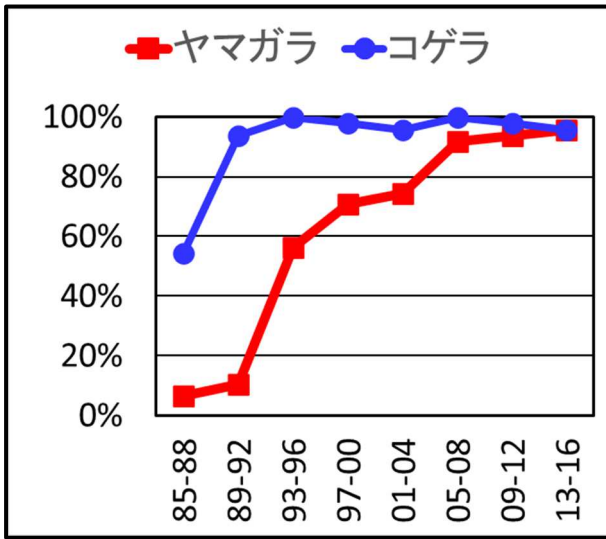
次々回 3月12日(土) 2月に同じ

4. 万博公園で観察した鳥・今昔(その②)

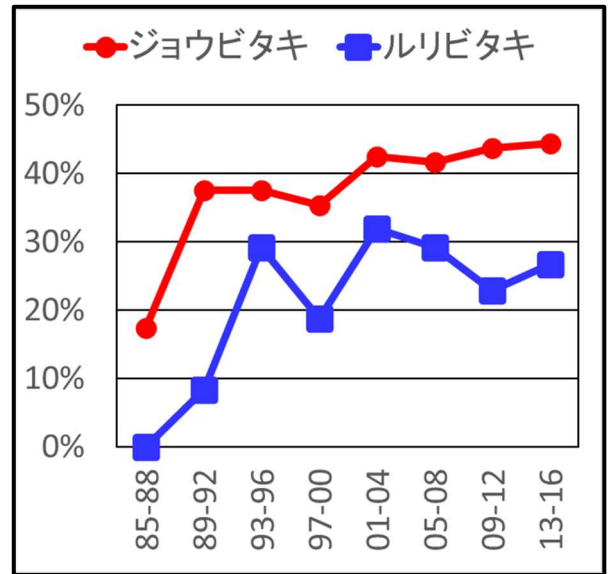
①林の鳥が増えた 先月は草原の鳥が減ったことを紹介しましたが、今月は林の鳥の変化です。



左図は 90 年ごろまでほとんどいなかった **ヤマガラ**、木々が大きくなるとともに公園内 **ヤマガラ(2021113)** 橋本昌宗氏に定着し留鳥になったこと、また **コゲラ** は夏鳥から留鳥になったことがわかります。



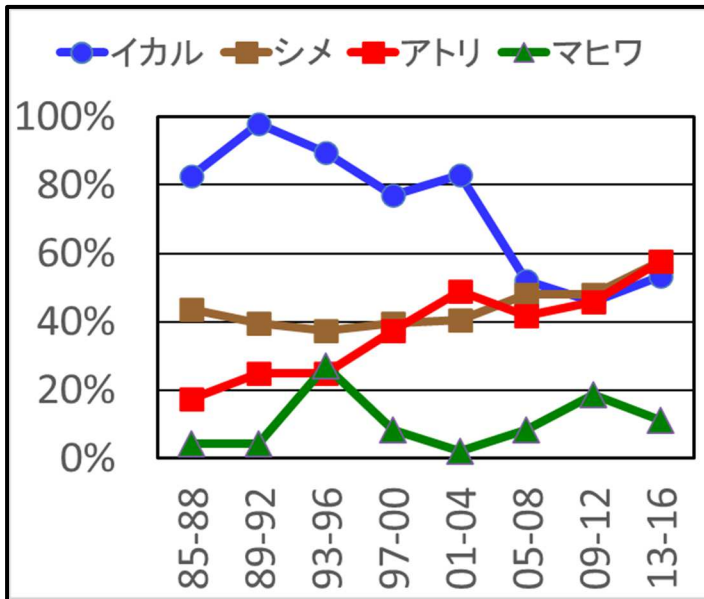
右図は冬鳥 **ジョウビタキ**・**ルリビタキ**、両種とも徐々に増え、**ジョウビタキ** は 12 月～3月までの4～5か月間、**ルリビタキ** は1～3月を中心に3～4か月間、冬鳥として定住し観察できるようになりました。



左図は今月探鳥会資料の鳥 **アトリ** など、アトリ科の冬鳥4種です。

イカル は 2005 年頃までは留鳥で、巣立ち直後の若鳥を見たことがありましたが、今は園内での繁殖は全くなく、冬鳥となりました。

シメ は毎冬毎月観察できますが、渡来数の変動が大きい鳥です。



今月の鳥の **アトリ** は、冬鳥として徐々に観察月が増え、最近では11月～4月、ほぼ半年間は観察できる鳥になっています。1ページ目に書いたように、万博公園にアキニレの本数が多く、エサ源が多いためと思っています。ここ数年遠ざかっている **マヒワ** は、多いときに数百羽の群れが来て、アトリと混群を作ってアキニレの実をついばんでいます。

雪の日アキニレに集うアトリ (廣瀬達也氏) →

(2008/2/9 雪の中参加者 38 名)

当日の探鳥会報告では、**アトリ 200羽**・カワラヒワ 200羽・スズメ 100羽とし、トータル 500羽として報告したが、実際はアトリを主に、このアキニレ木の両サイドに広がっていたので、アトリの個体数がもっと多かったと思われる。



2008 2 9

5. 探鳥会観察記録

種名	2021年			2022年		
	10	11	12	1	2	3
	9	13	11	8	12	12
1 24 オシドリ						
2 26 オカヨシガモ			3			
3 27 ヨシガモ						
4 28 ヒドリガモ						
5 30 マガモ						
6 32 カルガモ	15	35	33			
7 35 オナガガモ						
8 38 コガモ						
9 42 ホシハジロ						
10 46 キンクロハジロ						
11 58 ミコアイサ						
12 62 カイツブリ	10	8	6			
13 74 キジバト	8	4	1			
14 78 アオバト			5			
15 127 カワウ	3	1	2			
16 139 ゴイサギ						
17 144 アオサギ	2	1	3			
18 146 ダイサギ		1				
19 148 コサギ	1		1			
20 174 バン						
21 175 オオバン			1			
22 187 ツツドリ						
23 192 アマツバメ						
24 195 ケリ						
25 202 イカルチドリ			1			
26 203 コチドリ						
27 219 タシギ			2			
28 244 インシギ						
29 286 ユリカモメ						
30 339 ミサゴ						
31 340 ハチクマ						
32 342 トビ		1				
33 355 ハイタカ			1			
34 356 オオタカ						
35 357 サシバ						
36 358 ノスリ						
37 383 カワセミ	3	5	5			
38 390 コゲラ	7	5	2			
39 401 チョウゲンボウ	1					
40 407 ハヤブサ						
41 412 サンショウクイ						
42 418 サンコウチョウ						
43 420 モズ	5	2	1			
44 435 ハシボソガラス	10	17	13			
45 436 ハシブトガラス	83	49	44			

種名	2021年			2022年		
	10	11	12	1	2	3
	9	13	11	8	12	12
46 442 ヤマガラ	10	9	2			
47 445 シジュウカラ	21	27	10			
48 457 ツバメ						
49 463 ヒヨドリ	53	53	70			
50 464 ウグイス		1	2			
51 465 ヤブサメ						
52 466 エナガ		3				
53 477 メボソムシクイ						
54 479 エゾムシクイ						
55 480 センダイムシクイ						
56 485 メジロ	17	45	13			
57 492 オオヨシキリ						
58 501 ヒレンジャク						
59 506 ムクドリ	12		4			
60 508 コムクドリ						
61 514 トラツグミ						
62 521 シロハラ			3			
63 522 アカハラ						
64 525 ツグミ			35			
65 530 コマドリ						
66 536 ルリビタキ						
67 540 ジョウビタキ		4	2			
68 542 ノビタキ						
69 549 イソヒヨドリ						
70 552 エゾビタキ						
71 554 コサメビタキ	3					
72 558 キビタキ	1					
73 561 オオルリ						
74 568 ニュウナイスズメ						
75 569 スズメ	77	54	36			
76 573 キセキレイ	2	2	2			
77 574 ハクセキレイ	15	28	15			
78 575 セグロセキレイ	7	2	5			
79 580 ビンズイ						
80 584 タヒバリ						
81 586 アトリ		1	7			
82 587 カワラヒワ	64	45	18			
83 600 シメ			4			
84 602 イカル	1		31			
85 610 ホオジロ						
86 617 カシラダカ						
87 624 アオジ		2	2			
88 ドバト	○	○	○			
89 カッコウSP						
90 ムシクイSP	2					
91 タカSP		2				
種類数(種)	27	28	36			
個体数(羽)	433	407	385			
天候	晴	晴	晴			
参加者数(人)	10	24	33			